

TAKE FREE

MOVE

心が動くまちKOIWA



MOVEは、小岩の暮らしがもっと楽しくなる情報をお届けするフリーペーパーです。

2024 # 004

ワタシ and と コイワ

004

YAEKO YOZAN

アーティスト ヨザン弥江子さん



■ヨザン弥江子

東京都小岩出身。美大を卒業した後アメリカ（バトラー・ジュ・ロサンゼルス）に留学。帰国後は空間アート・デザインペイントのジャンルで20年以上にわたり活躍するパイオニア。(株)フォーアーツデザイン代表、女子美術大学非常勤講師。

「シャポー小岩に描いた作品に込めた思いを教えてください」

コンセプトは「多様性」です。小岩は「リアル多様性のまち」であると思っています。江戸川区って、都内のど真ん中と違って自然が豊かですよね。川があつて干潟があつて、豊かな土壌があつて。さまざまな文化があつて、くらしがある。地層を虹

「自身の仕事を「デザインペイント」と表現されていますが、どんな技法なのでしょうか」

壁画や特殊塗装など、一般の塗装とは異なる装飾的な仕上げを行う方法です。英語で「デコラティブペイント」と呼ばれる分野なのですが、「デコラティブ」って日本人にはなじみのない言葉ですよね。そこでわかりやすく「デザインしたペイント」「デザインペイント」という言葉をつくりました。

「2024年3月下旬にグランドオープンしたシャポー小岩内にある鮮やかな壁画アート。素材や手法にこだわらず、あらゆる表現で空間を彩り続けるヨザン弥江子さんが手掛けたデザインペイントです。有名コーヒーショップのコンセプト店舗や大型テーマパーク、ホテルなど、ワールドワイドな活躍を続けるヨザン弥江子さんに、作品や小岩への思いを伺いました。」

普段はドトールコーヒーショップの飲食スペースとして利用されているコイトテラス。その壁一面を彩る壁画は、小岩駅周辺の地図に再開発後の新しい道路がオーバーラップしたデザイン。明るい黄色には「一番最初に日が昇る小岩」のイメージを感じる。「壁画の江戸川に魚を描いたから、探してみて」と、ヨザンさんらしい遊び心も。(2021年ディスプレイ産業賞入選)



ほとんどが手描き。手作業の良さを伝えていきたい。



写真提供：(株)フォーアーツデザイン

現場で、手作業で仕上げる。まさに職人の技！

紙の上に描くデザイン画と、人が暮らす場所での背景となる時では、やはり印象が違うんですね。だから現場で高さを調整したり、少しアレンジする「最後の味付け」が大切なんです。

壁に直接描く以外に、壁紙やタペストリーに描いた作品を納品することもあります。足場屋さんや大工さん、塗装屋さんなど、ありとあらゆる業者さんと協力して作品を設置するため、高所作業の免許や建築業許可証も持っています。うちのスタッフはほとんど女性ですが、赤いヘルメットを

空間をイメージしてデザインをしますが、実際に現場へ行くと、さまざまな条件が見えてきます。「ガラス張りだから多方向から見えるな」とか、「座った人からはこう見えるんだな」とか。作品にあたる光に合わせて、色の濃さを調整することもあります。

紙の上に描くデザイン画と、人が暮らす場所での背景となる時では、やはり印象が違うんですね。だから現場で高さを調整したり、少しアレンジする「最後の味付け」が大切なんです。

大きな作品を創作する上で、大変なことも多いのではないのでしょうか

すべてを絡めて、東京で一番早い時間に太陽の光が照らすまち、シンプルだけれど豊かで明るく、元気が出る作品にしました。

色で表現していますが、虹はすべての色、プリズムの色、すなわち多様性の象徴です。

私は、高校の時に先生から聞いた「江戸川区は東京都で最初に陽が昇るまち」という話が、今でも印象に残っているんです。太陽もプリズムを通すと虹色になります。



父が板金業で使っていた仕事をリフォームしました。天井が高いので、大きな壁画も制作できます。仕事内容は違いますが、同じものづくりの仕事なので、使い勝手がよいんですよ。例えば、父が金物のコイルを保管していた地下室があって、私はそこに材料を入れていきます。スタッフが現場に行く前に立ち寄って、ショッピングするように材料を選んでいきますね。

子どもの頃、「ただいま」と帰ると、ここで仕事をしている父の姿が見えました。私の仕事は職人に近い。職人として働く父の姿を幼い頃から見て

日本や世界で活躍するヨザンさんが、小岩に拠点を置く理由はなんですか

かぶって現場に行くので「赤ヘル軍団」なんて呼ばれているんですよ。



生まれた場所が小岩のフラワーロードなんです。長屋なので残っていないんですけどね。子どもの頃は、毎月フラワーロード全体が緑になる日があって、家族みんなで行っていました。ささやかな楽しみがいっぱいあって、嬉しかったのを覚えてます。今でもあるのかな。

大人になってからは、よくスタッフと一緒に「けやき」で食事をしていました。メニューが多いのでヴィーガンの私でも食べられるものが結構あるんです。おじいちゃんたちが丁寧に調理してくれるからおいしいし、安いし、イチオシです。

隣でいきなり喧嘩がはじまることもありましたが、その雰囲気も小岩らしいというか。まち全体が自由で自然体で、誰でもウェルカムという感じ。

最近、小岩に関して発信しているイン스타그램をよく見えています。「こんな場所もあるのか」

幼少期から過ごした小岩は、ヨザンさんにとってどのようなイメージですか

いたことも、今の道に進むきっかけになっていると思います。



といった新しい発見もあるし、その一方で懐かしいお店の閉店を知ることもあります。

最近では都市開発が進み、ビルが増えて駅前もきれいになりました。画一的になってまちの個性がなくなるようで残念にも感じますが、それも時代の流れです。若い人たちが住みやすくなるのが、一番大事ですから。だからこそ、小岩の持つ元気で賑やかな魅力を、「デザインペイント」で残していきたいですね。



写真提供：シャポー小岩

シャポー小岩の壁画は、小岩のイメージを虹色で表現したひと続きのデザイン。小岩の豊かな大地と歴史を感じる「地層」。ヨザンさんも幼少期楽しんだという江戸川での凧揚げが題材の「渡る風」。その他、水辺の躍動感を表す「水玉」や江戸川名物の「花火」がある。「小岩ヨイトコ」と名付けられた街角壁画は、商売繁盛を表した元気で楽しい作品。

KOIWA

ジャーニー

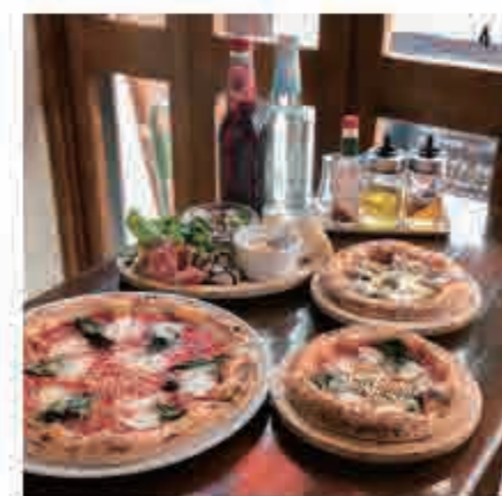


パスタやピザなど身近なものから趣向を凝らした本格的な料理まで、みんなが大好きなイタリア料理。今回のジャーニーは、小岩の人々に愛されるイタリア料理店をご紹介します。ワイン片手に、KOIWAを旅してみよう！



気軽な店構えで逸品を味わう
カウンター越しのライブ感にワクワク！

イタリアンだけでなくフレンチや洋食店など広いジャンルで培った経験をもとに、旬の食材を活かしたベストな調理法でアプローチする。「都心と変わらない満足感。ここ小岩で味わうてほしい」という言葉が嬉しい。低めの温度設定で、肉汁を逃さず焼き上げるローストが人気。



食事からスイーツまで、25種類以上のピザが楽しめる専門店

注文を受けてから生地を伸ばし焼き上げる。本格ナポリピザの店。草蓋(540℃)の窯に入れ、短時間で一気に焼き上げることでふんわりと耳が立ちあがる。人気のオリジナルメニュー「スパイシーピッツァ」は、ハーブの香り高いイタリア産ソーセージ「サルシッチャ」が味の決め手。



ジビエや自家製生ハムなど、
肉に特化したイタリアン

研究熱心なオーナーが作り出す料理のテーマは「保存食」。自家製の生ハムは店内に吊るして熟成することも。独自の真空技術で保存性を高めた豚肉は、食感が柔らかくなりおいしさもアップ！オーナーの地元である長野の食材もふんだんに使用されており、どこでも食べられない料理に心が躍る。



2Fのセリーヌスペース
Brasserie Liberte
平日ランチは前日までの予約制 ●江戸川区西小岩 5-1-17 S&Y 1F ●03-6657-8914 ●11:30～14:00 (月～水)、11:30～14:30 (土日祝)、18:00～24:00 (平日) / 18:00～23:00 (土日祝) ●木曜休 全曜ランチのみ供
1 4人ハム&ヌの焼込みコース仕立て 1,300円
2 赤手羊蹄中身のロースト 1,200円
3 凍り蟹のトマトクリームソース リングイネ 1,800円



ピザの専門店
Pizza Ora
ランチのミニピザは女性に人気 ●江戸川区西小岩 1-19-34 ワクダビル ●03-6458-9328 ●11:30～14:30、17:30～21:00 ●月・火曜休 (祝日の場合は翌日休業)
4 スリカスターピッツァ(ハーフ) 980円、モチエネリ(ハーフ) 620円
5 マルチピザ 720円
6 本日の創業プレート 1,200円～



日リゼット
Biglietto
イタリア自然派ワインも要チェック ●江戸川区南小岩 7-28-16 ●03-6806-9807 ●17:00～14:00、18:00～21:00 / 20:00～21:00 (水～木)、17:30～22:00 / 10:21:30 (金・土) ●日・月曜休
7 3種の鳥かわりお肉盛り合わせ 1,290円
8 鮎のコンフィと熊手ずのフリット (季節限定) 1,850円
9 スムージーと巨五郎のピスタチオ (季節限定) 2,200円

古今東西 南北小岩

小岩を歩いていると神社によく出会いますが、なかでも「天祖神社」と名の付く神社が多い気がしませんか？今回は、天祖神社とはどんな由来を持つ神社で、なぜ小岩エリアに多いのかを紹解していきます。



天祖神社 (撮影: 赤森 健)

天祖神社は伊勢神宮の天照大神(アマテラスオオミカミ)を主神として祀る神社のごとで、江戸時代までは「神明社」と呼ばれていた。明治3年、「天照大神が天皇の祖先神である」という大教宣布の詔が出たことにより、東京府域内の神明社は「天祖神社」に名を改められた。平安時代の終わりごろ、地方の豪族が自らの私有地を貴族や有力な自社に寄進(寄付)し、荘園にする動きが起こった。国司の立ち入りを拒否でき、税金を納めなくてもよいというメリットがあったからだ。特に寄進先が伊勢神宮の場合、荘園は御厨と呼ばれた。現在の江戸川区も、伊勢神宮に寄進された「葛西御厨」に含まれていた(ほか葛飾区・江東区・墨田区も含まれる)。そのため江戸川区には伊勢神宮をルーツとする天祖神社が多いといわれている。

天祖神社 MAP



小岩エリアの天祖神社など「天照大神」を祀る神社

- 1 小岩田天祖神社 北小岩5-28 伊勢の御厨で現存し、明治社として多分改められた。
- 2 土小岩天祖神社 北小岩6-39 区と小岩村の継ぎ、立派な大地蔵で築造された。
- 3 五北天祖神社 北小岩5-17 100坪の御厨が区の文化財に指定されている。
- 4 小岩神社 東小岩15-15 小岩の御厨で、鎌倉時代に入地して築かれたと推定。
- 5 土一色天祖神社 西小岩2-2 江戸から明治に制作された8部の彩色彫刻が拝観に掛けられている。
- 6 沖天祖神社 南小岩6-16 新築不詳。区内は地蔵の湧出も利用されるなど御厨の域。
- 7 東小岩天祖神社 東小岩1-32 1872年明治の御厨(1875)の御厨といわれる。
- 8 中岩天祖神社 南小岩4-1 御厨は不詳だが、文政初期に築かれたと推定される。

※価格は全て税込です。



わたしの小岩の歩き方 KOIWA BASE

日が暮れかかる小岩。やや緊張した面持ちで待ち合わせ場所に現れたさわやかなカップル。丹羽智貴さんと山本あさこさんの2人は小岩でくらしながら、地元を紹介するインスタグラムアカウント「KOIWA BASE」を運営している。2人と一緒に歩きながら、若い世代が抱く小岩への思いを聞いた。

とつきにくく見えても、結局小岩の人は温かい

バス停を模した看板の上に回るパトランプ。2人が1軒目を選んだのは、印象的な外観の居酒屋「おでんと揚げ物矢つく」だ。昭和レトロな引き戸をガラリと開けると、笑顔が素敵な店長が明るく出迎えてくれる。2人もすっかり顔なじみだ。

10席程度のこじんまりした店で目を引くのは、中央に据えられたペーパークラフト。中では店長の息子（1歳）がすやすや眠っている。ここは「赤ちゃんがいる居酒屋」としても有名なのだ。

思わず声をひそめて乾杯すると「めったなことでは起きないから大丈夫ですよ」と笑う店長。数軒の居酒屋を家族経営する中で、自分の任された店を出産後どう切り盛りしようか悩んで生まれたスタイル。心配もあったが、お客さんみんなが親のように成長を見守ってくれるそうだ。

看板メニューのおでんをつつきながら、「KOIWA BASE」について2人に聞いてみた。趣味感覚で始めたインスタグラムが支持され、今では7千人を超えるフォロワー（取材時）がいる。

「これまで取り上げたお店は100軒以上、でもまだまだ行きたい店があるんです。これは大変なまちだと。路面



コイワベース
KOIWA BASE

profile
グルメ・スポット・イベントなど小岩の魅力を紹介するインスタグラムアカウント「KOIWA BASE」を2人で運営。小岩出身でない2人が小岩でくらし、20代のリアルな視点で発信する投稿が幅広い世代に支持されている。

小岩でくらす人の数だけ小岩の歩き方がある。
小岩のまちを一緒に歩き、その目に映る風景や心に浮かぶ思いを聞きました。



01 おでんと揚げ物 矢つく

江戸川区南小岩 7-31-4
080-1024-6147
17:00～23:00
火曜定休



02 一カ

江戸川区南小岩 8-8-6
03-3672-4129
15:00～20:00(水～土曜)、
15:00～18:30(日曜)
月・火曜定休



03 SOUL BAR STOMP

江戸川区南小岩 7-28-16
03-5694-5299
19:00～翌3:00
不定休

店だけでなく2階や地下にも店がある。中が全く見えない店も多くて、入りづらいことこの上ない(笑)。最初はドアを開けるのに勇気が必要だったけれど、フレンドリーな店が多いんです。歴史がある店や雰囲気のあるバーも、一見さんだからと邪険にされたことは一度もないし、若造がフラッと入っても快く迎え入れてくれる。うちは緊張せずに入ってもらうために店内が見えるガラス戸にしたんですよ、と店長さんも話に加わる。いつの間にか目を覚ました息子くんがご機嫌にアウアウと話しかけてくれ、あまりのかわいらしさに後ろ髪を引かれながら店を後にした。

懐かしく、また新鮮でもある小岩の日常

「本当によく行く、大好きな店」と紹介されて到着したのは、歴史を感じる渋い外観が目印のもつ焼き屋「一カ」。昭和通りに面した焼き台で、いいにおいをさせながら焼いている。いかにも通っぽいやこの字カウンターに座り、焼きたてをビールでという算段だったが、シヨーケースに残る串は残りわずか。もうじき店じまいだというので、テイクアウトをお願いした。

「うちは午後3時からやるから、早い時間に串がなくなっちゃうんだよ」とチャキチャキ話すおやじさんは御年72歳。おやじさんが子どものころにできた一力は、65年以上変わらぬ姿で小岩のまちを見守っている。

会社帰りに買った一力の串をつまみながら、夕飯の支度をするのが2人の定番スタイル。「地元が浦安の住宅街だったのでこういう雰囲気はなかったんです。ぼくたちの世代は仕事と家を行き来するだけの生活になりがちだけど、なじみの定食屋に寄りたり銭湯で疲れを癒したり、ここでのくらしは新鮮で楽しい」と丹羽さんは話す。小岩に住み始めたのは、友人と2年間のシェアハウス生活をしながらのきっかけ。物件を探しているいろいろな駅をまわる中で小岩に下り立ち、地蔵通りに足を踏み入れたときの雰囲気が決めた手になったそう。

あさこさんにも聞いてみた。「総武線にもめったに乗ることがなかった私なのに、最初に小岩に来たとき懐かしさを感じたんです。大阪の歓楽街にある母の実家に似ている気がして。小岩で初めて行った店が珍来で、女子



よく味のしみたおでん。玉子は半熟。



ボトルキープの数は常連に愛されている証。



一本から買える老舗のもつ焼きを堪能。



レトロなジュークボックスも新しい体験。

SNSからリアルな繋がりへ

高生たちが『やっぱ小岩って最高だもん！チャーハン美味しい。おじさん、コカ・コーラ！』って話すのを聞いてドキドキしました。普通高校生って、地元の店で食べたり、地元が好きって言ったりしないでしょう？(笑) そんなあさこさんの心を打ち抜いたのは、内見した部屋の窓から見えた夕日とスカイツリーだった。2人で住み始めたその部屋が「小岩ベース」なのだ。

すっかり暗くなった昭和通りを歩いて、音楽好きのあさこさんがおすすめするバー「STOMP」に到着した。古民家の2階、いわゆる「ドアを開けるのに勇気がある」タイプの店だが、物怖じせずスルスルと階段を上っていく。昔ながらのジュークボックスで好きな曲を選ぶと、店内に



若いのに小岩が好きなの？と聞くと「年齢関係ないですから」とサラリ。

彼らの軽やかな感性で発信される小岩の姿を、これからも楽しみたい。

「りりイという老舗の町中華について投稿したとき、古参の方から『なかなかかわかってるね』というコメントをもらって嬉しかった。そんなファンが多い人気の店なのに、りりイは建物の老朽化で閉店してしまいます(2024年6月末)。再開発もあって、これからまちの景色も変わっていくでしょう。インスタに投稿を残すのは、そんな記憶を留める証人としての役割もあると考えています(あさこ)」

改めて、2人に小岩のまちについての想いを伺った。

は大音量でソウルミュージックが流れ始めた。地域やまちづくりに関わる仕事をしている丹羽さんは、自分からすまちでも何かできたという思いを持っていた。「まず発信から始めて、地域の活動に落としつけていけたらいいなと考えていて。小岩デラックスさんとリアルで会って話げたのをきっかけに、KOITTOマルシェに出店するなど地域の方と繋がるようになってきました。5月に開催されたイベント「#こいわの日」では、実行委員としてSNS投稿を担当。自身もイベントを楽しみ、ますます小岩が好きになったという。

※小岩デラックス：YouTube、SNS、書籍、イベントなどで小岩の魅力を伝え盛り上げる地域活性化メディア

※#こいわの日(518の日) 2023年から始まった小岩のまちフェス。5月18日を「#こいわの日」とし、小岩駅周辺の飲食店等が協力して開催する。

MY KOIWA style

あなたの好きな「小岩」を教えてください。

小岩でおすすめのお店やスポットを紹介する投稿コーナー。読者の皆様から、素敵な情報をお送りいただきました。ありがとうございます。投稿はまだ募集集中！皆さんもぜひ、小岩のお気に入りの教えてください。



MOVE 読者投稿フォーム ▲

01 呑み処 集り処 来味



西小岩で一番入りづらい隠れ家居酒屋バー。アパートの2階に上がり中に入ると、気さくなマスターが出迎えてくれます。元ホテルシェフの料理とオリジナルカクテルの相性は抜群！一度行けば虜になること間違いなしです。(投稿者:あさげ)

02 マルゼン靴店



私は靴が大好きで、小岩駅南口のフラワーロードにある「マルゼン」さんに行っています。おしゃれな洋服もあり、お気に入りのお店です。(投稿者:おかつ)

03 下小岩親水緑道



全長徒歩で約20分。水音がする緑豊かな道を歩いていくと、美味しいお店が立ち並ぶ商店街や、浜田彰三さんの石彫刻に出会えます。植物や昆虫、水生生物が息し、水路沿いに生活が広がる、息づくお散歩コースです。(投稿者:モネルドン)

5年ぶりの阿波おどり！心をひとつにしておどる楽しさを知りました。



阿波おどりでは、おどり手たちが「連」と呼ばれるグループに分かれておどる。

小岩のワクワクを日々探し求める編集部が、気になるコトをレポート！今回は、7月6日に開催された「第7回 小岩阿波おどり」に行ってきました。見るだけではなくおどりに参加するという貴重な体験で感じたことをお伝えします。(取材:コウジ・ハナエ / KOITTOスタッフ)



編集部が行く！

まずは、開会式に参加するため小岩駅前北口広場へ。会場に着いたところ、まさかの大雨……。不安が募る状況で始まったオープニングイベントでは、高円寺を拠点に活動している吹鼓連さんの演舞が披露されました。雨の中でのおどりは圧倒的な迫力で大いに盛り上がり、不安な気持ちを一気に吹き飛ばしてくれました。演舞後、開会宣言が行われ、各連がスタート地点に向かうことに。私たちは、事前の申し込みなしで誰でも参加できる「にわか連」に加わります。「にわか連」の集合場所に行くくと、軽快におどっている方が目にとまりました。気になって話しかけてみると、第一回の事務局を務めていたという小岩阿波おどりをリードしてきた大先輩。洗練されたおどりを目の前で披露してくださり、おどり方もレクチャーしてくれました。

最初は、開会式に参加するため小岩駅前北口広場へ。会場に着いたところ、まさかの大雨……。不安が募る状況で始まったオープニングイベントでは、高円寺を拠点に活動している吹鼓連さんの演舞が披露されました。雨の中でのおどりは圧倒的な迫力で大いに盛り上がり、不安な気持ちを一気に吹き飛ばしてくれました。演舞後、開会宣言が行われ、各連がスタート地点に向かうことに。私たちは、事前の申し込みなしで誰でも参加できる「にわか連」に加わります。「にわか連」の集合場所に行くくと、軽快におどっている方が目にとまりました。気になって話しかけてみると、第一回の事務局を務めていたという小岩阿波おどりをリードしてきた大先輩。洗練されたおどりを目の前で披露してくださり、おどり方もレクチャーしてくれました。

最初は「足の動き、手の動きはこれでいいの？」といった基本の動きに気をとられていましたが、時間が経つにつれ、お囃子のリズムや沿道からの温かい声援で緊張がほぐれ、自然と笑顔に。緊張がワクワクへと変わっていきました。「にわか連」は、おどりの経験や性別、年齢、国籍など関係なくその場



練習をしていると、ついに本番が始まる時間に。沿道には観客が集まり、シャイで人前に入るのが苦手な私は少し緊張気味。そんな中お囃子が響き渡り、私たち「にわか連」の踊りが始まりました。



最後に、今まで一緒におどってきた人たちが輪になって、10分ほどおどる時間が。正直疲れきった身体にはとつてもつらい時間……。だけど、それ以上におどりの楽しさ、一体感が気持ちいい！永遠に続いてほしい!! そんな気持ちになりました。その場に居合わせた人なら誰でも一緒に「おどる阿呆」になれる。そんな阿波おどりの魅力を今回の取材から発見することができました。みなさんも来年はぜひ体験してみてください。(文:コウジ)



小岩阿波おどり 「まちに元気と笑顔を届けたい」という思いで2014年スタート。地元である小岩はもちろん、高円寺、小金井、葛飾区、文京区、神奈川県大和市など各地から参加する。第7回はコロナ禍を経て5年ぶりの開催。

MOVE ~心が動くまち KOIWA #004 2024年7月末日発行

企画・発行 一般社団法人小岩駅周辺地区エリアマネジメント (KOITTO)
〒133-0056 東京都江戸川区南小岩7-24-20
FIRSTA I (ファスタワン) 1階 KOITTO TERRACE(コイトテラス)
TEL 03-6657-8007

編集 まいぶれ江戸川区 (株式会社京葉十二社広告社)

表紙 SOUL BAR STOMP

編集後記

読者の皆さま、最後までお読みいただきありがとうございます！おかげさまで第4号の発行を迎えました。最近では「最新号はもう出ましたか？」とまちの方からお声をいただく機会も増え、嬉しい限りです！今回もドキドキしながら取材のお願いにあがりましたが、「小岩のためなら何でも力になりますよ！」とまちの皆さまが快く応じてくださいました。人のあたたかさが感じられることも小岩の魅力のひとつですね。(ハナエ/KOITTOスタッフ)

「MOVE~心が動くまち KOIWA」は、KOITTO(一般社団法人小岩駅周辺地区エリアマネジメント)が年2回企画・発行するフリーペーパーです。本誌はKOITTO TERRACEにて配布しております。ラック設置店舗も募集中です。